

指定等の答申をした文化財の概要

重要文化財（建造物）に答申した文化財の名称

旧毛利家本邸

【所在地】 山口県防府市

旧毛利家本邸は旧長州藩主の毛利家が大正5年に建設したもので、瀬戸内海をのぞむ多々良山の麓に敷地を構える。南側に庭園、北側に本館ほか複数の建物からなる住宅を配置する。

本館は、客間、居間、詰所など、機能別の建物が中庭を囲む。特に客間は良質の木材を使用し、飾金具や金粉蒔きの壁紙など、贅沢な意匠である。本館の北側には台所など、家政を支える各建物が機能的に配置される。

旧毛利家本邸は、旧藩主が近代に建設した住宅建築である。大規模で複雑な構成の建築を、上質な意匠と高度な木造建築技術を駆使してまとめるとともに、コンクリート造や鉄骨造、機能的な配置計画など近代的な建築手法を効果的に取り入れており、近代における和風住宅の精華を示すものとして重要である。



重要有形民俗文化財に答申した文化財の名称

福應寺毘沙門堂奉納養蚕信仰絵馬

【所有者】 宗教法人福應寺

【所有者の住所】 宮城県角田市

【員数】 23,477点

【文化財の概要】

①文化財の特色

江戸時代半ば以降、養蚕の安全と多収を祈願して奉納された絵馬のまとまりである。毘沙門天信仰と結びついた養蚕信仰絵馬の奉納習俗を示すものであり、全国的にも類例のない絵馬群である。この地域における養蚕のあり方や全国的な養蚕に関する信仰の習俗との比較の上でも重要なものである。

②文化財の説明

本件は、宮城県角田市鳩原はとほらに所在する福應寺毘沙門堂に奉納された絵馬のまとまりであり、総点数は、23,477点である。これらの絵馬は、毘沙門堂の中に放り込まれたような状態で奉納されていたものを整理したものである。絵馬の形式は、小絵馬と呼ばれる大きさのものが大部分で、毘沙門天の使いとされるムカデの姿を描いたものや「百足」などの文字を書いたものに分類される。



【ムカデを描いた絵馬】



【「百足」「蜈蚣」などの文字を書いた絵馬】

史跡に答申した文化財の名称

鷹島神崎遺跡 たかしまこうざきいせき

【所在地】 長崎県松浦市

鷹島神崎遺跡は、長崎県本土北部、伊万里湾に浮かぶ鷹島の南岸東部に位置する神崎港地先の海域に所在する蒙古襲来に関わる古戦場である。

この海域は、弘安の役（1281）の際に、元軍の船団が暴風雨により沈没した地点として伝えられており、鷹島南岸では、古くから地元の漁師によって壺類や刀剣、碇石いかりいしなどが水中から引き揚げられていた。昭和55年度から開始された発掘調査では、船体の一部や、陶磁器類とうし、漆製品やたば、矢束かぶと、刀剣、冑をはじめとする武器・武具類などが多量に出土し、分析の結果、これらの遺物が弘安の役で沈没した元軍のものである蓋然性がいぜんせいが高まった。

蒙古襲来は、鎌倉幕府を崩壊させる遠因となった日本史上重要な事件であり、遺跡から出土する様々な遺物は、従来、文献・絵画等によってしか知られなかった蒙古襲来の様相を具体的に明らかにした。このように鷹島神崎遺跡は、当時の軍事・外交などを理解する上で極めて重要な遺跡である。

